

教 科(科目)	芸術(美術I)	単 位 数	2単位	履 修 学 年	1・2年次
使 用 教 材	日本文教出版 高校生の美術I				
副 教 材 等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①本校の特色及び取組を生かした高大接続、教育課程の編成、授業改善により基礎学力の向上を図るとともに、さらなるキャリア教育の実践を推進します。</p> <p>②規律ある学校生活の中で基本的な生活習慣を確立し、時代の変化に対応できる能力の向上を図ります。</p> <p>③生徒一人一人の良さや可能性を伸ばし、自立した社会生活を営むことができる力を育てるとともに、生徒の自己実現を図ります。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>総合学科の本校では多様な科目開設という特徴を生かした教育活動を展開し、「産業社会と人間」を基本として3年間を見通したキャリア教育を充実させます。また、地域と連携した実習や就労体験等、地域の教育資源を活用して教養、人間性及び社会性を育てます。</p> <p>①多様な進路希望に対応する選択科目を設け、資質、能力の育成に相乗的であるように教科等横断的な視点に立った指導であること。</p> <p>②学習の継続性に配慮し、主体的・対話的で深い学びが実践できるような基礎基本を重視した教育課程を編成する。</p> <p>③ICTの活用も含め、生徒個々が自身の進路希望を意識した学習態度の早期醸成と高揚につなげられるものであること。</p> <p>④学校設定科目「キャリア実習」をはじめ、科目の設定にあたり地域産業、地域の人材を生かした授業展開ができること。</p>

2 学習目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>表現、鑑賞活動を通して、造形表現における基本的な知識・技術の習得を目指し、自己表現力を育てるとともに、本校の「芸術・文化系列」の科目選択に対する理解を深めていきます。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</p>	<p>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し 創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価基準の評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	以上の観点をふまえ ・学習活動への参加の状況 ・制作した作品及び制作の初めや途中のスケッチや試作品 ・学習記録などから、評価します。	以上の観点をふまえ ・学習活動への参加の状況 ・制作した作品及び制作の初めや途中のスケッチや試作品 ・学習記録などから、評価します。	以上の観点をふまえ ・学習活動への参加の状況 ・制作した作品及び制作の初めや途中のスケッチや試作品 ・学習記録などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	オリエンテーション	2 〈絵画〉	クロッキー等	・年間学習内容を説明し、学習の目標をもたせ、学習意欲を起す。	2	・アンケート ・作品 ・観察
	自分の名前をレタリング	4 〈デザイン〉	レタリング	・文字の描き方、基本的な字体を理解する。	4	
5	身近なもののデッサン	8 〈絵画〉	デッサン(基礎)	・基礎的な幾何形体の観察、描写を通して形態把握と表現の基礎を学ぶ。	8	・観察 ・作品制作
6	カラーホイールの作成	8 〈デザイン〉	色彩構成	・12色相環などを活用し、色彩構成の基礎を学ぶ。 ・混色による色彩の広がりとその規則性を学ぶ。	8	・観察 ・作品制作 ・自己評価 ・相互評価
7 ～ 9	「校歌の世界を表現する」	14 〈絵画〉	プッシュステンドグラス	・校歌または西脇順三郎の詩集を読み、その世界の映像化に取り組む。 ・生徒相互の作品を鑑賞し、相互評価をおこなう。 ・生徒相互の作品を鑑賞し、相互評価をおこなう。	14	・観察 ・作品制作 ・自己評価 ・相互評価
8	夏休み鑑賞			・美術展を鑑賞し、各自の感想を提出する。		・感想文
10	静物画	14 〈絵画〉	油絵と編集	・油絵の具特有の描写方法を生かし、個性的な作品を作る。 ・モチーフを把握できる観察眼を養う。	14	・観察 ・作品制作 ・自己評価 ・相互評価
11						

12	「アニメーションの作成」	14 〈映像メディア表現〉	iPadによる撮影	・タイムラインの概念を理解し、素材のよさ、魅力を引き出すとともに撮影機材、編集の方法を学ぶ。	14	・感想カード ・作品制作 ・自己評価 ・相互評価
1						
2						
3	作品鑑賞	6 〈鑑賞〉	作品鑑賞	・美術史および「国宝、重文」指定された作品の鑑賞を通して、世界の表現と日本の相違を感じ取る。	6	・観察 ・鑑賞カード
計 70時間						

7 授業担当者からのアドバイス

・各課題には一定の期限が設定されます。しっかりと授業に臨み、取り組むことが作品の完成への道筋となります。

・本校では芸術文化系列を設置し、美術系の科目を多数開講しています。1年次の美術Ⅰの内容では2,3年次の美術科科目のガイダンスを含んでいます。ライフプランと連動した科目選択がよりよいものとなって欲しいと思っています。適切な科目選択は美術の専門分野への意思表示と捉えてください。

・「多く視点をもつこと」「モノをよく見ること」を1年間の授業の中で体験していきます。時には対象の理解がよりよい表現へとつながることもあります。様々な単元の中で各自の造形経験を増やすとともに納得いくまで試行錯誤してください。

・作品を制作する際には各種用具を用います。用途を理解し、適切な使用方法を学んでください。

自分の作品、ほかの人の作品はそのときの自分を映す鏡でもあります。丁寧な制作、慎重な保管を心がけてください。